

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作った理念である「あなたらしい普通の生活叶えます」を念頭に、職員間でケアを振り返りながら実践している。コロナ禍もあり十分とは言えないが地域の関りも含め可能な限り取り組んでいる。	「あなたらしい普通の生活叶えます」というホーム独自の理念を掲げ、玄関やリビングに掲示し共有を図っています。事業所の年間の重点目標や職員個別の目標も設定するなどし、理念の実現に向け取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しておりコロナ禍もあるが清掃活動に参加。地域の方々もご参加いただいている。秋祭りはコロナ禍の為行えていない。畑仕事や犬の散歩の際、近所の方たちとの交流がある。地域の文化祭に作品出展し文化祭にも参加。	自治会に加入しており清掃活動に参加したり、地区の作品展にご利用者の作品も出展しています。今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、自治会の集会や防災訓練にも参加し、ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は家族介護教室や地域で認知症サポーター養成講座を開催、南区認知症カフェに定期的に参加するなど認知症になっても住みやすい地域づくりに努めていたが、現在はコロナ感染症予防に伴い活動できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接の小規模と合同で開催している。ご入居者や地域住民、区の職員、他の小規模事業所、居宅事業所等幅広いメンバーで行っている。ご助言を運営の参考にさせて頂いている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面での開催もありますが、併設の小規模多機能型事業所と合同で、各事業所のご利用者代表、ご家族代表、地域住民代表、地域包括職員、他事業所の職員等のメンバーで開催しています。ホームの活動状況や利用状況の報告を行ったり、有益な地域情報を頂いたり、事業所の検討事項についてアドバイスを頂き、サービスの質の向上に繋がられるように取り組んでいます。	運営推進会議録に記載している入退去一覧表に記載ミスがありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	些細な事でも疑問に思った事は、保険者に問い合わせ、ご助言をいただいている。また、区の高齢介護課・地域包括にも運営推進会議に参加いただいております。随時情報共有行っている。	区の職員、地域包括職員が運営推進会議のメンバーであり、報告や意見交換を通じて事業所の状況について把握してもらっているほか、介護保険関連で疑問点等があればすぐに相談して確認するなど、日頃から連絡を密に取っています。ま	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご入居者の思いを尊重し、行動を制限しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も行わず、自由に行き来できている。勉強会を行い、身体拘束の理解を深め声掛けによる拘束にも気を付けながら自身の行動、ケアの振り返りを行っている。	身体拘束を行わない方針のもと、全職員が法人の新採用研修で身体拘束をしないケアについて学んでいます。また、ホーム内での身体拘束の検討会や定期的な研修時に事例等を基にした話し合いなど学習を重ね、拘束をしないケアについて理解を深めています。事業所理念の「普通の生活」を目指し、センサー類に頼らず、ご利用者の自由を抑制せずに安全を確保するため、ご利用者を注意深く観察し行動パターン等を把握して対応しています。	身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回以上定期的に開催されることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部での勉強会、外部研修等に積極的に参加し、学びを深めている。高齢者虐待を未然に防いでいくために、自分たちのケアの振り返りを行い、不適切ケアを失くすよう取り組んでいる。	身体拘束と同様に研修会で虐待防止について学び、職員は理解を深めています。職員のストレスにも配慮し、雰囲気の良い職場となるよう努めており、不適切なケアについても検討する機会を設け、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について内部で勉強会を行っている。成年後見制度を活用されている方もおり、職員間でケースの共有しているが、制度を理解する学びの場は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず見学、説明の機会を設け、利用案内を具体的に言い、不安や疑問、ご要望等を伺い、ご理解いただいたうえで後日契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪頻度が高く、ご本人のご様子を伝えながらご要望を伺い、何か要望、意見があった場合は全職員で情報共有している。毎月、写真入りの手紙を送付しその方の暮らしぶりをお伝えしている。	ご利用者からは、日々の関わりの中で要望等の把握に努めて接しています。ご家族からは、面会時や電話連絡時、また要望に合わせてLINEを使用して意見・要望を確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	イベント行事に関しては、基本的に介護職員が話し合い決定している。日常業務においてもミニカンファレンスを通して職員が発言、提案しやすい環境にある。働きやすい仕組みづくり委員会があり法人へ意見を上げられる仕組みもできている。	業務内容に関しては、基本的に職員で話し合い決定する事としており、毎月の職員会議にて職員は責任感を持ち積極的に提案・意見を出し合い、職員で話し合い決定し、運営に反映させています。法人でも年に1度の意向調査や働きやすい職場づくりに向けたアンケート調査、個人面談の機会も設け、職員の意向に添えるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で人事考課制度を採り入れており、年に一度各職員に合った目標の確認を行っている。毎月の職員会議でも管理者も交え業務内容の確認や提案など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修は勿論、職員それぞれのスキルに応じて、外部研修にも積極的に参加し、見識を深める機会を設けている。職員の相談ごとに関しても話を聞く機会を設け主任と情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内介護サービス事業所の会や保健医療福祉のつながりを深める会・南部地区地域医療連絡会の役員にも属し勉強会の企画、運営等、同業者と協力しながら区全体のスキルアップを目指している。コロナ禍でリモート参加が多くなった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間で情報共有を行い、カンファレンスを通して少しでもご意向やご要望、不安をくみ取れるよう、ゆっくりと時間をかけて寄り添っている。環境においても可能な限り配慮できるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の思いを汲み取れるよう、数回に分け、時間をかけて面接を行っている。何か不安な事や疑問があれば、気軽にご連絡を頂けるよう伝えている。また得た情報は速やかに職員へ伝え共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に事業所の方針を伝えた上で、ご本人のニーズや状態に合っているかを、インフォーマル資源も含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人は生活の主演と考え、ご本人が出来ない部分をさりげなくお手伝いするケアを心掛け、行える事は(置物や野菜切りなど)一緒に取り組んでいる。昼食は職員も作ったものを共に食べながら同士の関係作り心にかけている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様子は写真と共に月に一度お伝えしており、面会や電話連絡の際に、これまでの暮らしぶりや嗜好を伺い共に考えている。定期受診等も可能な限り、今までの医療機関を継続しながらご家族が受診に付き添ってくださる方もおられる。	コロナ禍でもご家族には面会にも来て頂き、受診の付き添いなど、ご家族に協力をお願いしています。また、ご本人の様子を知らせる手紙に写真を添えて毎月送っており、ご家族との情報の共有に努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中制限はあるが可能な限り面会や外出を行えるよう努めている。ご家族やご姉妹と電話で話をさせていただいたり馴染みの場所へ車窓ドライブなど工夫しながら取り組んでいる。	入居前にご本人・ご家族から馴染みの人や場所について聞き取りを行い把握しており、ご家族とお手紙のやりとりを続けたり、今年度は新型コロナウイルスの影響で面会も窓越しで外出も制限していますが例年では、ご利用者の地元の祭りや敬老会に参加するなど、ご家族の協力も得ながら関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にご入居者同士の関係性に気を配り、席の配置や余暇活動の関りを考えている。共通の話題を見つけ職員が間に入り関わりを持ったり、協力し合える活動では自然とそれぞれの役割が生まれ、他の方を気遣っている場面も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族より連絡いただき近況を伝えてくださる。以前はご本人とご家族で遊びに来て下さったケースもある。ご縁を大切にしながら何かあれば相談に乗れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度のカンファレンスを通してご本人の思いや生活の改善について検討している。本人の希望や思いを尊重して意向に添えるよう努めている。困難な場合はご家族に伺いながら本人の思いを大切にしながら検討行っている。	居室担当制はとらず、全職員が一人ひとりのご利用者とのコミュニケーションを大切にしており、普段のご利用者との会話の中から、今何をしたいのかななどの思いを確認しています。各種のシートを使用し情報を収集し、職員間で検討を重ねることで思いの把握に努めています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まだ十分とは言えないが可能な限り、入居前の面談や、関係機関からの情報、ご本人との会話の中からも取り取るとともに、ご家族や親族等の来訪の際、お話を伺ったり、状況を確認させていただいている。	入居時に生活環境・生活歴などをできるだけ把握し、入居後も引き続き情報を得ています。ご利用者やご家族と馴染みの関係を築きながら、日々の関わりの中で情報を蓄積し、これまでの暮らしの把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員が毎月、総括表を作成し、心身の状態の変化や生活の中での気づき他入居者様との関係等を記入している。ミニカンファレンスを通して気づいたことなど早めに検討できる仕組みを作り内容を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の望まれる暮らしを大切に、ご本人とご家族からお話や要望を伺っている。それらを職員間で共有し話し合った内容を介護計画に盛り込んでいる。	日々職員間で情報・意見交換をしたり、アイデアを出し合ったりしており、ご家族からの情報や意見も参考にし、介護計画に反映させています。また、モニタリングを通し、ご利用者の状態を確認しながら、その都度介護計画の見直しを行っています。状態の変化があった場合には、関係者と話し合い、現状に即した新しい介護計画を作成しています。	モニタリングシートの日付に入カミスがある方やケアチェック表の期間の記載に入カミスがある方もいましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やカンファレンスを通して職員間の情報共有行っている。職員からの提案を踏まえて介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に沿いその日の気分に合わせて過ごしていただけるよう、日課等は設けていない。ご家族の急な用事や受診の依頼など臨機応変に対応行っている。ニーズに対してより良いサービス提供が行えるよう職員で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為これまで行っていたボランティアとの関りやお祭り等の参加は難しくなっているが、畑ボランティアの活動や地域の文化祭に参加など、可能な限り関りを持てるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状態の変化やご希望に応じて、往診可能な医院を紹介している。基本的にはこれまでのかかりつけ医との繋がりを大切にしている。ご家族と共に受診していただき、ご協力に感謝している。	基本的には希望のかかりつけ医にご家族が同行して受診しています。日頃の様子は文書で情報提供し、受診結果は申し送りノートに記入して共有しています。状況に応じては職員が同行し、受診支援を行なう場合もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護職員がご入居者の健康チェックや処置の対応などを行い、必要時にはかかりつけ医との連携を行っている。また、ご入居者に変化があった際には24時間連絡できる体制をとっており、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はこれまでの暮らしぶりや心身の状態を文章と口頭で医療相談員、病棟看護師へ伝えている。また定期的に病院や家族とも連絡を取りながら状態把握に努めている。退院時には通常の生活にスムーズに戻れるよう必要なケアを見直しながら職員共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所での重度化・終末期の指針について説明し、署名・捺印を頂いている。また、終末期に移行した場合も再度、ご本人、又はご家族の意思を確認、尊重しできる限り添えるよう協力体制の整備に努めている。	「重度化した場合における看取りに関する指針」があり、契約時にご本人・ご家族に説明し意向を確認しています。ホームでも実際に看取った方もおり、重度化した際や終末期を迎えるなど状態変化に応じてその都度ご本人・ご家族と話し合い、意向を確認し方針を共有しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による個々のご利用者の状態に合わせたアドバイスを受け、研修等で急変時の初期対応についても理解を深めている。	応急手当や感染症予防・対応についてマニュアルも整備されており、AED使用講習の機会を設けたり、看護師のアドバイスも頂き、緊急時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害を含む防災訓練を年2回、定期的に行っている。図上訓練も実施しより具体的な場面を想定しながら話し合っている。災害時のマニュアルや緊急連絡網の見直しも定期的に行い災害時に備えている。	年2回、日中や夜間の火災を想定し避難訓練を行っています。隣の小規模多機能事業所と連携体制を整えており、合同の緊急連絡網で災害時は近所の職員がすぐ駆けつけられるようにしています。また、地域の防災訓練に参加したり、自治会を通して地域の方へ災害時の協力をお願いしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者は、人生の先輩であることを意識し敬意を忘れないように、自身の言葉遣いや態度に気を配っている。目線や伝え方についても配慮しながら親しみの中にも適切な距離を保つように気を付けている。	接遇や個人情報保護法について研修を行い、ご利用者との関わり方について指導し、人格の尊重とプライバシーの確保を徹底しています。また、契約時に個人情報の取り扱いに関してご家族に説明し承諾が得られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者が気兼ねせず希望や思いを発言し自己決定ができる雰囲気づくりをしている。(レクや活動の選択、食事の選択、日常会話の中からやりたいことの声掛けなど)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いに添って、自由に生活していただけるようにしている。外出や買い物等もできる限り対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の乱れや髭の手入れ、衣類の汚れ、気候に合った服装など身だしなみに気を付け支援を行っている。入浴前に一緒に衣類を選べるまでは配慮できていない為今後の課題。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備も個々の能力に合わせて一緒に行ったり、食べたいものを伺い季節感や行事のメニューを考えている。事業所で採れた野菜を活用しながら旬のものを楽しんでいただけるよう取り組んでいる。	食事作りから片付けまでご利用者と職員と一緒にしています。ご利用者のセレクトメニューや好みの具を選ぶラーメンバイキング、畑でも野菜を収穫し食材に利用するなどし、食事を楽しんで頂けるよう努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食べやすい食事形態でお出している。水分を取っていただけるようお茶だけでなく好みのものを選んでいただくようにしている。水分摂取量も把握しながら体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合ったやり方で行っている。状態の変化があった際は、道具や介助の方法を検討し、できない部分はお手伝いしている。朝、夕は行えているが昼は十分とは言えない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が、ご本人の自信喪失や意欲低下につながらないように、その方のパターンやトイレ誘導の声掛け、タイミングを職員間で話し合い支援している。訴えがあった際は2人介助でもトイレ誘導行い対応している。	排泄チェックや様子などをもとに排泄パターン把握し、その時の個々の状態に合わせ自立に向けた支援をしています。トイレでの排泄を可能にする上で課題があれば職員間で検討し、対応を考えることでスムーズな排泄につなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向や水分量が低下している方には、乳製品や水分が十分とれるよう、ご家族に施行を伺ったり好まれる飲料を提供するなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に2日に1度は入浴していただけるようにしているが、希望があれば毎日でもはれるように声掛け、対応している。ご自宅での暮らしぶりに添えるよう午後からの入浴を実施している。	普通の生活に近づけるため入浴時間を午後からにしており、希望する時間に入浴できるよう支援しています。ご利用者の要望に合わせて同性介助での支援を行ったり、入りたくない方は無理強いせず、本人のタイミングにまかせており、心地よく入浴して頂けるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときにお部屋で休んでいただけるように様子を見ながら声掛けしている。そのまま休み過ぎてしまわないよう適宜声掛け行い、夜間の安眠確保に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を検証し、看護師に助言を仰いだり、症状の変化を主治医に伝え相談している。主治医もご様子の変化に柔軟に対応してくださっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力や生活歴等を考慮し、役割や楽しみを持ち、生活が送れるよう支援している。だがまだ支援できることはあり十分とは言えないと感じる。、想い、要望を引き出し楽しみごとにつなげていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為思うような外出が行えていないが、可能な限り、近所への散歩や遠方へのドライブなど工夫しながら支援している。	新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、地域で馴染みのある鯉のぼり見学や笹川邸に出かけたり、季節に合わせてお花見や菊祭り見学などの外出の支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金を預かっているが、個々の希望時に買い物に行けるよう支援している。現在はコロナ禍の為、要望をお聞きし職員が購入してきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだり、ご本人から要望があれば事業所の電話から連絡し、お話しして頂いている。事業所からご家族へ出す際、書ける方は宛名を書いください。お手紙やハガキが届いた際には代読して内容をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂けるよう季節の花を飾ったりしている。日差しの配慮や室内の温度変化にもこまめに対応行い、不快にならないよう調整行っている。	リビングには吹き抜けと大きな窓があり明るく開放的です。事業所内に過剰な装飾はせず、窓から庭花や畑を眺めることで季節を感じられるよう配慮しています。センサーやコール音は極力排除し、普通の家のような空間を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、カウンター、ソファ、1人用テーブルなど共有スペースで様々な席を設け、互いの関係性やご本人の状態を見ながら気を配っている。ウッドデッキや玄関前のベンチも活用し、個々の過ごし方を援助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「自分の物」「使い慣れた」食器や道具を持ち込んでいただき、リラックスして頂けるよう配慮している。	各居室の入り口には個々で選んだ暖簾が飾られています。ご本人・ご家族と相談し家具や本など使い慣れたものを持ち込んでもらっており、今までの生活習慣を継続できるような居室づくりをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のご入居者の情報を共有し、リスクになりそうなことを話し合い理解を深め、その人らしい生活が送れるよう努めている。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				